# 会長選挙の実施について

本会の役員選任規程5条に基づき，社員（代議員）による会長選挙が行われます．同規程第6条4項に従い，候補者2方の紹介記事を掲載いたします．この投票の結果により来年2月理事会において次期（2027〜2028年度）会長が内定します．

選挙管理委員会

# 次期会長候補者の紹介

⑴ 生年月日，⑵ 所属・職位，⑶ 略歴，⑷ 専門分野，⑸ 本会役員・委員の履歴，⑹ 会長候補者としての考え．Sは昭和，Hは平成，Rは令和（50音順）．

## 辻　　幸一（つじ　こういち）



⑴ S38年6月11日，⑵ 大阪公立大学大学院工学研究科・教授，⑶ H4年東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了，博士（工学），同年東北大学金属材料研究所分析科学研究部門助手，H14年大阪市立大学大学院工学研究科助教授，H20年同教授（R4年より大阪公立大学教授），この間，H16〜20年さきがけ研究員兼任（構造機能と計測分析，寺部総括），その他，ヨーロッパX線会議とデンバーX線会議の運営委員，ISO/TC201/SC10専門委員/WG1コンビーナ，⑷ 分光分析，X線分析，⑸ 東北支部（常任）幹事（H9〜14年度），近畿支部（常任）幹事（H15〜現在），近畿支部支部長・本部理事（H29〜31年度），X線分析研究懇談会委員長（H27〜R3年度/R5年度），第85回分析化学討論会副実行委員長（R6），⑹ 会長候補としてご推薦していただきましたこと，大変光栄に存じます．本会が積み重ねてきた歴史と伝統，そして各事業を継承しつつ，会員減少が続く今こそ，より魅力的な学会に発展させていく決意です．学会の果たすべき役割は，①研究の推進，②教育と人材育成，③産官学の交流推進，④社会還元の四つにまとめることができます．先日の第75年会では多くの学生・若手研究者が活き活きと発表する姿に大きな可能性を感じました．次世代を担う若手研究者・中堅研究者を切れ目なく奨励し育てていく必要があります．また，活動の要である各支部や研究懇談会がそのポテンシャルを最大限に発揮できるよう，活動環境を継続して支援してまいります．国内外で成功している学会をみても，また学生の将来の活躍の場としても企業の役割は極めて重要です．企業にとっての本会の価値やメリットを一層高めていきます．新たな分析法は異分野交流から生まれることが多く，それが学術を開拓する原動力となります．大学等の個人会員の皆様が研究資金を獲得し力強く活躍できるよう，適宜適切な情報を提供し，様々なレベルでの異分野間交流を推進します．一方，分析化学は実学的な側面も強く，社会の要請に迅速に応えるために外部組織とも連携をとり，国際標準化も含めて学会の役割を果たしていきます．本会の活動は多岐にわたり，学会運営を取り巻く環境は厳しさを増していますが，会員の皆様と共に持続可能で魅力的な学会をつくっていきたいと考えています．

## 平山　直紀（ひらやま　なおき）



⑴ S38年7月25日，⑵ 東邦大学理学部教授，⑶ H5年京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了，博士（理学），同年日本学術振興会特別研究員，同年金沢大学理学部助手，H14年金沢大学理学部助教授，H20年金沢大学理工研究域物質化学系准教授，H22年現職（R2年〜副学部長，R7年〜臨床検査技師課程主任），⑷ 分離化学，溶液化学，⑸ 理事（H23〜24年度），筆頭副会長（R5年度〜現在），第68年会（R元年）・第73年会（R6年）・第87回分析化学討論会（R9年）実行副委員長，「分析化学」編集委員（H17〜18年度），Anal. Sci. 編集委員（H21〜28年度），同副委員長（H23〜25年度），「展望とトピックス」小委員会委員長（R2〜7年度），Confit小委員会委員（R5年度〜現在），中部支部幹事，常任幹事，関東支部常任幹事，副支部長（R3〜7年度），支部長（現在），⑹ 山本現会長の掲げる「日本分析化学会未来戦略構想」の下で，筆頭副会長として4年間学会の活性化に向けて様々な努力をしてきました．図らずも4年間体制が継続したこともあり，財政面・組織運営面・活動面等，懸案事項の処理や各種改革・改善が少しずつ進んできていますが，まだまだ解決していかなければならない課題が数多くあります．会員の皆様に会費改定というご負担をおかけしている以上，その負担増に見合うだけの本会の魅力向上は責務であり，情報発信のさらなる強化を進めていきます．また，企業関係会員の増強を図るためのさらなる施策が必要と感じており，日本分析機器工業会（JAIMA）との関係強化や，学生会員とし

て入会された方が企業就職後も引き続き在会する価値があると感じられる体制の構築が必要かと思います．さらに，若手・中堅の会員が本会の本部・支部の各種委員を引き受けることに意義を見いだして頂けるようになれば，本会全体の活性化に繋がると考え，そのための方策を検討していきます．私自身，現体制の評価や信任を問うような立場ではなく，また大した人材でもありませんが，本会の更なる発展のため現路線を継承・発展させていくことをお許しいただければ幸いです．

## 原　稿　募　集

**「技術紹介」**の原稿を募集しています

**対象**：以下のような分析機器，分析手法に関する紹介・解説記事
1）分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術，2）分析手法の特徴および手法開発に関わる技術，3）分析機器および分析手法の応用例，4）分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説，5）前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項，6）その他，分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など

**新規性**：本記事の内容に関しては，新規性は一切問いません．新規の装置や技術である必要はなく，既存の装置や技術に関わるもので構いません．また，社会的要求が高いテーマや関連技術については，データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません．

**お問い合わせ先**：
日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
〔E-mail：bunseki@jsac.or.jp〕